

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	詩七首：文苑
Author(s)	羽石，重雄；朝梁皋
Citation	龍南會雜誌， 19： 62 - 62
Issue date	1893-10-09
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/4130
Right	

心からの池くわ
寶滿山ほうまんざん

唐紅からくわの、色も有れ
心の池いの、水みづの面おもてに

學まなばむ人の、心こころにぞ

いふべかりけめ、詩うたに
涙なみだの多おほきに、勝たはらずとは

これをも慕したひ、彼かれもまた
寶滿山ほうまんざんの、月影つきかげの

いとすむべき、この秋あきは

書讀よみよむ人ひとと、ある勿なれ
鬼おにとりひしむ、武夫ぶふの

考かんひ合あせ、打渡うちわたりる

光ひかりりは遠とほき、後のちまでも

獨ひとりわが身みの、秋あきどころ

到いたる處ところの、目めに觸ふれて
今日けふの心こころろに、知しられけり

北豐族中作

小倉樓上夕景

羽石重雄

旅懷悠々獨倚樓。沙洲人散晚鐘幽。波間日落萬燈點。知是灣々夜泊舟。

又

臨水樓宜避暑。樓清風一夜偶來遊。倉津波

穩萬家。月海氣淒涼。又近秋。

仲津路上望周防灘

水禽亂喚夕陽頭。遠浦堪驚檣影稠。一簇蘆

花斜照路。行看三十六灘舟。

又

三十六灘晴色開。烟波杳渺氣佳哉。飛鴻點々入雲去。泛々布帆加一來。

小倉歸途汽車中作

輪發小倉向晚汀。回頭北望是蒼溟。可驚車轍疾於箭。遠浦青燈亂似螢。

夏晚散步

朝梁阜

玉露稻香兩適宜。貪看風景步遲々。認來一幅佳人畫。山似翠鬟月似眉。

二

温山磨出碧琉璃。新月一痕影似眉。如箇風光看不厭。三叉村路立多時。